

第 8 回東京都地域危険度測定調査委員会
平成 28 年度（第 3 回） 議事要旨

日 時 2017 年 2 月 20 日(月) 10:00～12:30

場 所 東京都第二本庁舎 31 階 特別会議室 24

出席者 【委員・専門委員】

中林委員、山崎委員、荏本委員、糸井川委員、加藤委員、伊村委員、藤田委員、市古委員、稲垣委員、大佛委員、樋本専門委員中村専門委員（代理者）、山本専門委員（代理者）、飯泉専門委員、山下専門委員

【関係機関】

小川課長（代理者）、松岡課長（代理者）、坂本課長（代理者）、山下課長（代理者）

（議事内容）

委員会では、議題に沿って以下のような内容の検討や意見交換が行われた。

1. 今年度の地域危険度測定調査(第 8 回) のスケジュールについて

○事務局より第 3 回委員会での検討事項について説明

- ・ （委員了承）

2. 公園・緑地・河川等の町丁目面積からの除外について

○事務局より公園・緑地・河川等の町丁目面積からの除外について説明

（河川、運河等の除外について）

- ・ 除外面積について、運河等の扱いがよくわからない。河川と同じ最大幅 100m 以上の運河を選択するというが、どの部分が 100m 以上なのか。
- ・ 河川の最大幅 100m 以上というのもよくわからない。上流から下流まで、どこかで 100m を超えていれば、その河川を全部除くという意味か。
→上流から下流までどこかで 100m を超えていれば、その河川は全部対象とする。運河もそれに準じている。
- ・ 小さな運河は除外されていないようだ。「運河等」というと、河川と違って、どこからどこまでで 1 つの運河かということがはっきりしない。
→河川と運河が入っている GIS を使用している。河川と運河と水路は、どのような形で除外しているのか、もう一度精査する。

（皇居等の除外について）

- ・ 都市計画公園等で精査しても、土地利用区分コードで精査しても、皇居等は除外されないということか。
→皇居や赤坂御所などは、都市計画公園の区域内ではなく、土地利用区分でも公園等に分類されていないので、機械的に作業した段階では除外対象にならない。第 7 回測定調査では個別に判断したのだと思う。
→第 8 回調査においても、個別にみて、公園等と一体として除けるところを除いていきたい。
- ・ 議論をまとめると、運河で幅 100m 以上というのをどのように適用するか。道路の交差点のように、運河も水路ごとに切って、運河幅を考えればよいのではないか。

公園については、手作業だが一体とみなせる領域を作成し、それが10ha以上、短辺100m以上あるものは除外する。

3. 建物倒壊危険度の測定結果について

○事務局より建物倒壊危険度の今年度の検討結果等について説明

(大規模盛土造成地について)

- ・ 大規模造成地の盛土の件だが、航空写真を使ったということだが、その精度はどのようなものか。また、盛土厚は分からないのか。
→航空写真を見比べているので、精度がそれほどあるとは考えられない。また、盛土厚はわからない。
- ・ これはもう公表されているのか。
→東京都のホームページに載っている。
- ・ 第7回まで使用していた大規模造成地分布図が更新されないということであれば、今回、新しい調査データに切り替えるのにちょうどいいのではないか。
- ・ 地震の時は盛土自体が滑りを起こしたりするので、盛土地域を示すことは防災上意味のあることだろう。

(大規模建築物等の取扱いについて)

- ・ 長周期地震動への影響を考えると、大規模建築物等を安全と言い切るのはどうかという問題だが、地域危険度は短周期の地震動を見ているので、長周期は別の問題として、超高層建物が揺れますから家具の固定等はしっかりしてくださいということを対策として展開していくのはどうか。
- ・ 長周期地震動では全壊レベルの被害が生じた例がないことや、影響を受ける建物が少ないこと、長周期地震動で問題とされる家具の転倒や人の怪我は地域危険度で取り扱わないため、危険度にはそぐわない。
- ・ 危険度というよりも長周期地震動による超高層建物、免震建物への影響について注意喚起を報告書に書いておくのはどうか。
- ・ 次に、大規模建築等について、除外するのかどうかはどのような見解か。
- ・ 建物倒壊危険度ランクについては、これまで通り棟数で出すものを基本としたい。そのうえで、大規模建築物等を除外して延床面積による危険度を参考に示し、都心部で非木造の古い中小の建物の耐震化が必要だということを示していきたい。
- ・ 延床面積による危険度は、結果が全く異なるものになるので、名前を変えないとまずいと思う。
- ・ 建物棟数ベースの地域危険度測定でも、大規模建築等は除外するのか。
- ・ 除外しないでよいと思う。延床面積で都心のリスクを表現するときには、除外すればよい。
- ・ 延床面積によるものは、「影響度」という言葉を使ったらどうか。

4. 火災危険度の測定結果について

○事務局より今年度の検討を反映した火災危険度の測定結果について説明

- ・ 高層階の除外が市街地火災に対してかなり効くということが分かった。
- ・ 下町の低減率が高いのは、小さいペンシルビルが下町の密集市街地には、結構、表通りにあるということが効いている。
- ・ 実際の建物の分布図と合わせて結果を見たい。

- ・ データは非木造建物を表していて耐火造とイコールではないという問題だが、非木造建物の出火件数期待値を、耐火造および準耐火造建物の延床面積比で、割り振ればよい。
- ・ 出火件数期待値の差分図は、高層階を除外した効果を示す。これは、市街地大火には影響しないが高層階からも出火することを表しているので、報告書の中にこの図を示す必要がある。

5. 災害時活動困難度の測定結果について

○事務局より災害時活動困難度の今年度の検討結果について説明

- ・ (委員了承)

6. その他 (第8回測定調査結果の公表に向けて整備すべき課題等について)

- ・ 前回に比べると、メッセージがかなり重層化しているので、想定結果だけではなく、メッセージを読み取れるよう分かりやすく整理した方がよい。
- ・ それは、パンフレットの作り方にも影響する。
- ・ 市区町に説明すると思うが、説明用資料を来年度前半ぐらいで確実にまとめておいた方がよい。
- ・ それらを含めると、来年度前半に、委員会2回、各部会2回ぐらい実施かなという感じがする。

7. その他

○糸魚川大火について、現地を視察した委員等で意見交換を行った。

以上